



地域医療を再生させる会 ニュース

発足総会に各組織から52名の参加

宮本さんを職場に戻し、労組をつくり病院を民主化することを確認

7月2日(月)18時30分より、自治体福祉センター4階会議室において、「旭中央病院・宮本さんを職場に戻し、地域医療を再生させる会」結成総会が開催されました。開始時刻には、仕事帰りにユニフォームのまま駆けつけてくれた仲間などでぎっしりの状態となり、最終的には52名の参加でスタートが切られました。

松本議長「勝利の秘訣は統一と団結」

総会冒頭、松本千葉労連議長から連帯と激励の挨拶を受けました。

松本議長は「この争議の本質は、旭中央病院当局が働きやすい職場づくりを主張する宮本さんと医労連を嫌悪し、組合潰しのために分限免職を発

日本共産党

旭中央病院を取り

巻く情勢を学び、たたかいに活かそうと、

日本共産党・丸山慎一県議から「千葉

県の医療政策と千葉

旭中央病院の医療の現状と課題」と題して報告を受けました。

丸山県議からは、

千葉県の医療政策に基づいて、千葉県が地域医療に対する責任を放棄してきたこと。そして、

旭中央病院に地域医療の責任

「勝利の秘訣は、統一と団結」であると強調し締めくくりました。

経過と行動提起

医労連の永島書記長

からは、若干の経過報告と行動提起がされました。

経過は、宮本さんが、違法宿日直による不払い賃金の支払いを銚子労基署に申告して求めたこと、

さらに、他の該当する職員にも支払いを求めたことなどを嫌悪した病院当局が、慌てて乱暴に首を切ったのが本質であること。

千葉県や旭市が、病院に責任を丸投げする中で、治外法権のような状態になり、病院の一部管理者のやりたい放題がされてきたことが公的病院として放置できない問題だと報告しました。

そのうえで、①宮本さんを職場に戻し、医労連の組合を病院につくるこ

と、②職員の要求を実現しながら、病院の民主化をはかること、③地域住民の要求に応えられる病院に再生すること、を基本方針として提起しまし

た。

と、②職員の要求を実現しながら、病院の民主化をはかること、③地域住民の要求に応えられる病院に再生すること、を基本方針として提起しまし

た。

と、②職員の要求を実現しながら、病院の民主化をはかること、③地域住民の要求に応えられる病院に再生すること、を基本方針として提起しまし

た。

地域住民・職員と力合わせ

行動提起では、「地域住民、職員と力を合わせる」ことを基本とし、県や市への要請、病院との交渉、職員や地域住民への宣伝行動、個人・団体署名、地域集会などに取

り組んでいくことを提起し、役員体制とあわせて確認されました。

役員体制

会長	松本 悟 (千葉労連議長)
副会長	鈴木 郁雄 (医労連委員長)
副会長	鈴木 徳男 (土建副委員長)
事務局長	永島 達哉 (医労連書記長)
次長	佐藤 俊光 (医労連副委員長)
	岡野 孝信 (医福労執行委員)

*自治労連、争議団、年金者組合、JMIUに依頼中

